



風邪をひいた時や体調を崩した時など、病院で抗生物質が処方されることがあると思います。みなさんはどんな時に抗生物質が処方され、どのような効果があるのかご存知でしょうか。

「処方されたから飲んでいた。」「前と同じ症状だから抗生物質をもらえば治るはず。」など、抗生物質に対して様々な考えがあるかと思えます。

今回は耳鼻咽喉科で主にどんな場合に抗生物質が必要となるか、また注意点についてご紹介します。

◇抗生物質ってどんな薬？



抗生物質は、細菌が原因となる感染症の治療に使用される薬です。細菌を壊したり増殖を抑えることで症状を改善し、重症化や合併症を防ぎます。

ウイルスが原因となる感染症には効果がありません（例：風邪やインフルエンザ、アデノウイルス、おたふくかぜ、ノロウイルスなど）。

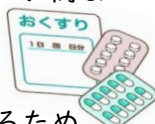
◇どんな時に抗生物質が処方されるの？

耳鼻咽喉科では、主に以下のような細菌による感染症の治療で抗生物質が処方されます。

急性中耳炎、外耳道炎、急性副鼻腔炎、急性扁桃炎・咽頭炎、急性耳下腺炎などがありますが、その時の症状や病状の経過から必要に応じて使用します。

◇抗生物質でどんなことに注意するの？

- ・必ず決められた量、回数、飲む期間を守ること。
症状が良くなっても途中でやめずに、医師の指示通り内服することが大切です。途中でやめると、感染症の再燃や薬剤耐性菌の発生リスクが高まることがあります。
- ・処方された本人のみが使用すること。
病状に合わせて抗生物質が処方されているため、他人の薬を使用することは望ましくありません。



- ・副作用の症状がでたら医師に相談すること。
主な副作用は発疹やかゆみなどの皮膚症状、下痢・軟便・腹痛・食欲不振などの胃腸障害があります。
※抗生物質を使用しても症状が改善しない時や悪化する場合には、再度受診して相談することも大切です。



◇耐性菌ってどんなもの？

抗生物質を使い続けていると、細菌の薬に対する抵抗力が高くなり薬が効かなくなります。このように、薬への耐性を持った細菌のことを『**薬剤耐性菌**』といいます。

これまでなら効くはずの抗生物質が効かなくなると感染症の治療が難しくなるだけでなく、手術の時や抗がん剤治療で免疫が低下した時の感染予防など、さまざまな医療が困難になってしまいます。抗生物質の不適切な使用や自己判断による中断などにより『**薬剤耐性菌**』が生じ、治療の妨げになってしまうことがあります。

厚生労働省より、薬剤耐性に対してこのまま何も対策がとられないと2050年には全世界で薬剤耐性関連の死亡者数は毎年1000万人に上り、がんによる死亡者数を上回るといわれています。

薬剤耐性菌のまん延を防ぐためには、抗生物質について正しく理解することや必要な時に適切に使用することが大切です。

マイナ保険証利用時には 電子証明書の有効期限をご確認ください

マイナンバーカードに搭載されている電子証明書は、医療機関で保険資格を確認する際に本人であることを証明するために使用されます。

電子証明書の有効期限はマイナンバーカードの発行日から5回目の誕生日までと定められており、マイナンバーカードの券面に記載されています。

電子証明書の有効期限切れから3か月以上経過すると健康保険証として使用できなくなりますので、住民票がある市区町村の窓口でお早めに更新手続きを行うようにしてください。

医療法人 社 会 おがさわら
耳鼻咽喉科クリニック
札幌市北区北24条西14丁目3番8号
北24条通メディカルプレイス3F
(TEL)011-747-3387
(URL)<https://www.oga3387.com/>

受付時間	月	火	水	木	金	土
8:45～ 12:00						
13:50～ 17:30				休診		休診